

基 調 報 告

後志大会実行委員会
研究副部長 岩 坂 仁

はじめに

爽やかな秋晴れのもと、9月21・22日の両日、第54回全道へき地複式教育研究大会後志大会が、全道各地より900名以上の先生方を迎え倶知安町文化福祉センターでの全体会、そして、後志管内9町村9会場の分科会が盛会のうちに開催された。

過去において5回の全道大会を開催したここ後志において行なわれた本研究大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟の第7次長期5か年研究推進計画の2年次目にあたり、昨年の釧路大会やプレ大会の成果と課題の上に立って、三特性を生かした学校・学級経営や学習指導の課題解明にあたり、その教育実践をより確かなものとし、次年度根室大会へとつなぐ大事な大会である。

1 後志大会の特色

本大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟及び後志へき地・複式教育研究連盟の第7次長期5か年研究推進計画に基づき、課題別研究による研究実践を積み重ね、それらの成果と課題を整理し、後志へき地複式教育の実践として公開し、研究を検証し充実を図ることによって、北海道のへき地・複式教育の一層の発展を目指し開催された。

後志へき地・複式教育研究連盟は、昨年プレ大会を開催し、第7次長期計画の課題及び研究内容を明確にして、各学校の特色ある教育計画や教育課程の編成・実施・改善に努めるとともに、児童生徒一人一人の個性を生かす指導計画や指導方法の改善を図ってきた。

今回の大会においては、

「学校・学級経営」と「学習指導」を一元的に取り上げ、課題研究にあたる。

研究内容に合致した適切な評価項目や評価の観点を明確にして、より成果が把握できるようにする。

各町村の実態を踏まえ、近隣町村との研究体制の確立を進め、より効果的な研究の積み上げと成果の交流を図る。

との重点を掲げ実践に取り組んできた。

2 後志大会の基本方針

地域、家庭、学校、子どもの実態を明らかにし、それに基づいた三特性を生かした教育活動に取り組み、第7次長期5か年研究推進計画の課題解決のため実践的な研究を推進する。

学校・学級経営 分野では、地域の教育課題を踏まえ、家庭や地域社会と連携しながら、「ゆとり」ある教育活動を展開し、「豊かな心」を育てる特色ある学校・学級経営を創造する。

「学習指導」分野では、地域に根ざした教育を展開し、児童生徒一人一人の個性を生かしながら、確かな学力を育てる学習指導を創造する。

校内研究の充実と近隣校との協力・共同研究体制を確立し研究を進める。

3 後志大会の成果

基礎・基本の定着を図り、一人一人の子どもが個性を發揮しながら、自ら学ぶ態度や能力を身につけ、豊かな心とたくましく生きる力を育む指導法の実践・検証が行なわれた。

一人一人の学習意欲を高める課題作りや学習場面の工夫・改善が図られるとともに、共感的継続的な支援・評価のあり方を探る研究実践が行なわれた。

各町村実行委員会を中心とした共同研究体制や協力・支援体制が確立し、会場校のみならず本研究大会に関わった全ての教職員にとって大きな財産となった。

おわりに

後志大会が多くの関係機関の方々のご支援・ご助力を賜り、全道の先生方、後志管内の先生方の力で、無事成功裡に終えることができましたことに心より感謝申し上げます。これからも、後志の大地に生きる子ども達に豊かな心と明日を拓く力を育むために「後志はひとつ」を合い言葉に研究を進めていきたい。



第1分科会 ニセコ町立近藤小学校



1. 研究主題

「自ら学び、生き生きと表現する子の育成」
～国語科を通して～

2. 研究内容

主体的に学ぶ力を育てるために、同時間接指導や同時展開など異内容指導における学習課程の工夫やリーダー学習を中心とした間接指導時の充実を図る工夫。確かな国語力を育てるための評価・教材分析・学年の系統性を重視した各領域の継続的取り組みの工夫。確かな表現力を育てるための書く活動への支援の工夫・表現活動の工夫・その他の領域との関連 といった3つの視点から研究を進めてきた。また、国語科物語文の異学年異内容指導を通して検証を行った。

3. 公開授業

低学年～言葉を手がかりとして創造を広げた読み取りを行うための動作化や自分の言葉で表現するワークシートを活用しながら、登場人物や場面の様子を楽しく意欲的に学んでいった。

中学年～間接指導時はリーダーを中心に互いに読み取ったこととの交流やまとめなど、問題解決に向かって主体的に学習を進めていった。発表ボードが意見交流の中で有効に活用され、互いの考えを認め合いながら話し合いを行っていた。

高学年～本時では解決に至っていない学習問題を解いていった。叙述に即した読み取りが行われていた。

それぞれの学年で、学習のまとめ段階での音読を中心とした異学年交流があり、異内容指導でも学級を意識した学習展開の工夫を行った。

4. 研究協議(成果と課題)

本校研究と関連した同時間接指導や同時展開について、一人一人の学習状況把握・支援や話し合い場面で活かすことができる、チャレンジカードやリーダー学習は、間接指導時に学習の見通しをもって

児童が主体となった学習を構築できるなど評価を得た。また、異学年交流に関して学級内での相乗効果があること、他領域への広がりや目指す子ども像の明確化で更に児童が伸びるなど期待が寄せられた。一方、今後の課題として、同時展開における教師の関わり方や確かな国語力を育成するための具体的な方法・書く活動と話し合いとの関連性の明確化などが出された。

第2分科会 喜茂別町立鈴川小学校



1. 研究主題

「進んで思いを表現できる子どもの育成」～へき地学校の実体に即した国語科の指導を通して～

2. 研究内容

仮説「子どもの意欲を喚起する学習課題や、確かな基礎・基本を培う学習課程を工夫することにより、「進んで学習しようとする」子どもを育成できるであろう。」仮説2「優れた表現に触れる機会を日常的に保障し、音読する・読み味わう・自らの表現に生かすなどの学習活動に継続的に取り組ませることにより、深く考えようとする子どもを育成することができるであろう。」から、思いや考えを伝え合う力を育むための基礎・基本作り 子どもの意欲を引き出し、成果を確かめることのできる学習活動作り 優れた表現に触れさせ、表現の幅を広げる学習活動の工夫と日常的な保障 長期的な積み重ねを重視した単位時間の学習過程の工夫 「思いを伝え合う場作り」の工夫 といった5つの視点から研究を進めてきた。

3. 公開授業

第1次公開は、全校児童による「英会話の集い」を行い、「天気」に関してゲームを交えながら英語活動を進めた。第2次公開は、1・2年生が「スイミー」を扱い、比喩表現に着目させて、生き物達の様子や